

平成 26 年度 第 1 回成田市学校給食センター運営委員会議事録

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 10 日（木）午前 10 時 00 分から
- 2 場 所 公津の杜中学校会議室
- 3 出席者 1 号委員 渡邊委員・金山委員
2 号委員 根本委員・上野委員・櫻井委員
3 号委員 京増委員・中村委員・三橋委員
事務局 関川教育長・後藤所長・窺係長・川瀬栄養士
- 4 議題 1. 学校給食センター運営委員会委員長の選任について
2. 学校給食センター運営委員会副委員長の選任について
- 5 報告 1. 成田市学校給食食物アレルギー対応マニュアルについて
2. 学校給食施設の整備について
- 6 議事（要旨、質疑）

議題 1. 学校給食センター運営委員会委員長の選任について

委員長は、成田市学校給食センターの設置及び管理に関する条例第 8 条の規定により委員の互選により選出することとなっていたが、推薦する方はなく、委員から事務局一任となったことから、事務局として中村委員に委員長をお願いし、委員からは異議なく承認された。

議題 2. 学校給食センター運営委員会副委員長の選任について

副委員長についても、成田市学校給食センターの設置及び管理に関する条例第 8 条の規定により、委員の互選により選出することとなっていたが、推薦する方はなく、委員から事務局一任となったことから、事務局として

京増委員に副委員長をお願いし、委員からは異議なく承認された。

報告 1. 成田市学校給食食物アレルギー対応マニュアルについて

事務局より報告。「成田市学校給食食物アレルギー対応マニュアル」については、平成25年11月の学校給食センター運営委員会で案として提案したが、その後千葉県においても「学校給食における食物アレルギー対応の手引き」が作成されたことからその内容を取り入れ、さらに平成26年4月に開催した市の養護教員研修会や、各学校の給食主任者が集まった会議などでも意見や要望等があったことから、それらを反映させたものとした。それは5月の校長会議で報告しており、今回の運営委員会ではこれらを踏まえながら、最終的な内容を委員に改めて説明した。

委員 除去食の申請は毎年提出するのか。

事務局 継続する場合は、継続申請書と診断書にあたる学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）を提出していただくようになります。

委員 マニュアルはホームページなどに掲載しないのか。また概要版のようなものを作成するといいいのではないか。

事務局 マニュアルについては、市と学校との学校間メール中で共有するファイルサーバーに保存し、どの学校からでも内容を見ることができます。ホームページに掲載することは、今後考えてまいります。また、概要版については作成するようにいたします。

報告 2. 学校給食施設の整備について

成田市では現在、親子方式による共同調理場の整備を進めている。これは、平成21年度に策定した学校給食施設整備基本計画において、敷地に余裕

がある学校に共同調理場を整備する内容である。また、平成22年度には、実施計画を策定し、施設整備の順序などを決めた。この計画に基づき、平成24年度に整備を進めた公津の杜中学校学校給食共同調理場が最初の施設として平成25年5月より稼働した。また平成26年4月には、本城小学校学校給食共同調理場が稼働を始めた。現在3番目の給食施設として公津の杜小学校に共同調理場を建設しようとしているが、規模が大きくなり単年度ではなく平成26～27年度の2か年で整備する。

また計画では全部で12か所の共同調理場の整備をすることになっているが、全部整備するには何年もの期間がかかることや、玉造の給食センターの老朽化も進んでいることから、公津の杜小学校の共同調理場が完成したら、3000食程度が、整備した共同調理場で賄える見込みで、玉造の施設2棟のうち、古い方を稼働停止にする予定になっている。

いっぽう、学校の状況として、計画策定時より児童生徒数が大きく変化している学校や校舎を増築したりした学校もあるなど変化も見られることから、施設整備実施計画を見直す委託を発注した。これは、親子方式のみでの整備には限定せず、玉造の給食センターの建て替えを含めたなかで、何が最も望ましいかを見直そうとしている。今後は12月末頃にパブリックコメントを実施し、来年3月の議会で報告する予定となっている。

委員 大栄地区については、実施計画ができた当初は統合校2校だったが、平成34年開校という一貫校という現在の計画の中で、給食センターが現在の場所で稼働しているのか、また今後の見通しについて教えてもらいたい。

事務局 大栄の給食センターについては、平成2年の整備で、玉造等と比べると比

較的新しい施設です。平成 22 年に作成した実施計画の中では、後半の整備になっています。教育委員会では、一貫校ということで色々と案を検討しています。一貫校の建設と一緒に給食センターも併設するというプランもありますが、現在、一貫校の基本計画を作成していますので、その中でどういうかたちが一番いいのか、また、整備計画の見直しの中でどのようなかたちがいいのかを検討していきたいと考えております。

教育長 この実施計画を作るきっかけは、給食施設の老朽化です。特に玉造の本所の方が、いつストップするか分からない厳しい状況で急がなくてはいけない、その中で今整備する公津の杜小の給食施設が完成すれば、本所の方をストップさせても、給食の提供はできるということです。

また、子どもたちにより温かくおいしい給食を食べさせたいという気持ちと、アレルギー対応をしていくという思いがありますので、その点を含めたかたちのプランをもう一度練り直そうということでやってまいります。

児童数の増加の話がありましたが、吾妻小学校は、当初に考えていたよりも児童数が増え 800 名を超える規模の大きな学校になっており、吾妻小に作ろうとしていた敷地が確保できない状況になってきています。これは、他のところに作らなければならないということで見直しをしなければならない状況です。また、成田小のようにつくるにも場所がないところもありますので、もう一度、数を考えながら、かつ美味しく安全な給食を提供していくという点を考えながら見直しをしようということです。

大栄のセンターの話がでましたが、成田市では大栄だけがドライ方式を採用していますが、下総や玉造の施設はウェット方式の施設で残っています

ので、その点も改善してまいりたいと考えております。また、施設整備に伴って必要となってくる栄養士の配置や、栄養士の数が増えてくれば、それを市全体で取りまとめていくシステムの構築が必要となってくるでしょうし、地元の食材をできるだけ利用しようとするならば、調達のための人員配置も必要になってくるでしょうし、色々な部分で我々が考えていかなければならない部分がありますので、施設整備に伴って考えてまいりたいと思っています。

傍聴 1名